

## 紹介

◎色彩新論、東陽堂發行、

洋裝菊判百二十餘頁定價金七十錢

故田口米作氏の遺著にして、神東淳氏の増訂になり、金子末松秋元三子爵の序文あり。まづ色彩に關する理論を説き、配色の比較調和を述べ、實例に徴して説明すること極めて詳。挿繪は何れも石版色刷にして、十數葉の多きに達せり。色彩に關する著書少く、従つて斯道の知識乏しき現今に於て、此書の如きは、學者を益すること甚だ大なるべし（特約賣捌所京橋區南鍋町二ノ三、日曜新聞社代理部）

◎畫集 第五輯 東京寫真研究會第一回展覽會の畫集にして、本編には人物畫六點風景畫九點を收めたり。風景畫には、關口氏の『晩秋』萩生田氏の『冬の夕暮』鈴木氏の『傾く月影』等情調共に佳（四六倍判六十錢日本橋區本町小西本店發賣）

◎志賀の湖 第一卷第一號 一部七錢、近江八幡町志賀文藝社

失望なきやう今より願置候。但、此計量によりて集まりし金額は二百圓を超過致候。詳しくは次號に發表可致候

□振替貯金規則改正に相成候故登記料は本會に對し御拂込に不及候

□七月八月九月號等の配布先變更を望まらるゝ方は、遅くも本月二十日以前に御通知を受け度候

## 近事

△太平洋畫會展覽會は、前月二十一日朝野の名士を招待して觀覽に供し、二十二日より公開したり

△白馬會は前月十日より開會

△日本水彩畫會研究所四月例會は二十四日開會、午前眞野講師の透視畫法講話、午後批評後、大下講師の『雜感』と題する話ありて五時散會、出品畫百五十點  
△全五月例會は休み

□本號口繪原色版は、初夏午前五時より七時迄の寫生にして四日間を要せしもの、原畫はワットマン四ツ切大に御座候。愛讀者星眼君より、もつと説明を詳しくせよとの御申出有之候も、別項Y、N、K氏に御答へ申上候通の次第に付、説明はこの位ひにて御用捨願上候

□本號も編輯上の都合にて原色版二枚を挿入致しかね候。近時多數讀者の御希望もあれば、八月號より多少の改良を加へ、原色版三葉を挿入致すつもりにて目下計畫中に御座候

□紀念號は、前號豫告よりも原色版は増加致すべく、石版は多少減せらるべく候。定價は一部金四十錢を申受候。但、本會よりの直接讀者は、普通號の二倍、即ち金三十六錢にて御注文に應ずべく候

□内容は只今申上兼候。同人極めて多忙の中を編輯に従事致居候事故、思ふ半分も手が廻らず、たゞいつもよりも挿繪が多いといふ位ひの程度に御座候、何卒御

日本水彩畫會新會友  
島根縣美濃郡都茂小學校

飯田 藤 郎